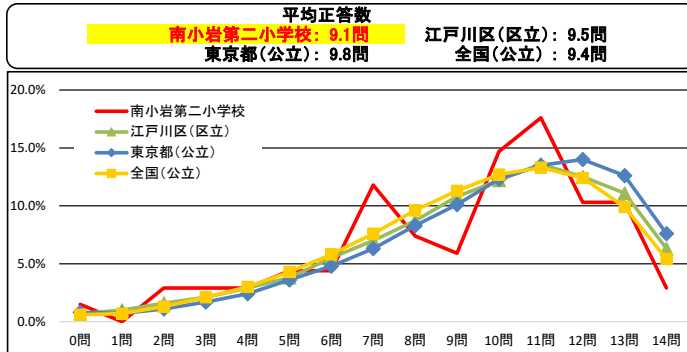


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】南小岩第二小学校

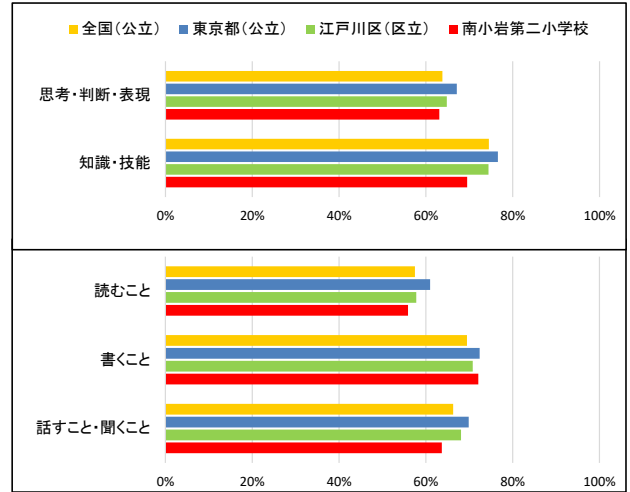
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

南小岩第二小学校	65%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	66.8%
都との差(ポイント)	-5.0

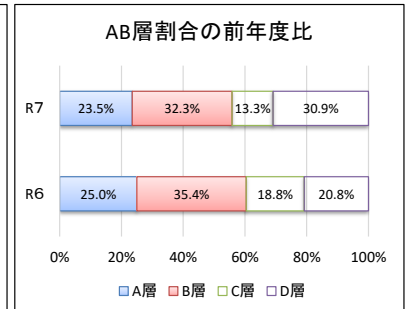
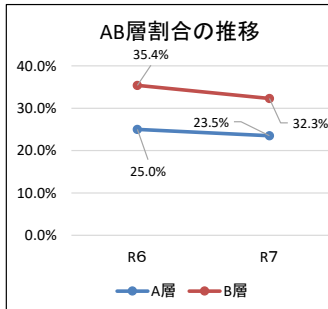
「領域別」の結果



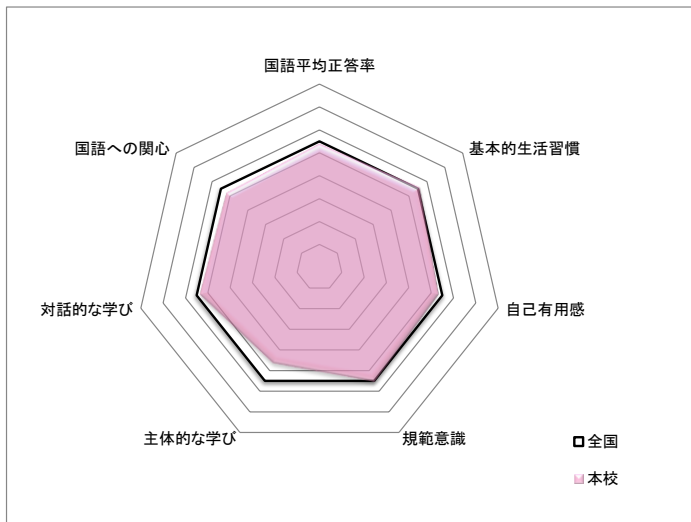
四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

国 語	上 位 ← → 下 位			
	A層 12~14問	B層 10~11問	C層 8~9問	D層 0~7問
南小岩第二小学校	23.5%	32.3%	13.3%	30.9%
江戸川区(区立)	30.0%	25.8%	19.5%	24.7%
東京都(公立)	34.4%	25.8%	18.4%	21.4%
全国(公立)	27.7%	26.0%	20.9%	25.4%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

主体的に学ぼうとする態度に関する質問に対して、全国平均に対して否定的な回答の割合が高かった。規範意識や対話的な学びに対しての回答は全国平均と同等であるため、お互い学び合うことは苦ではない様子であるが、自ら学ぼうとする姿勢に問題があると考え。算数科と比べて、国語科への関心が劣っている。

《家庭・地域への働きかけ》

低学年の頃から、正しい書字活動が身に付くことができるように、家庭でも様子を見ていただくよう保護者会等で伝えている。夏期の保護者面談において、1学期の学習の内容や児童の習熟の様子がわかる学習カルテを配布し、児童の学習の実態がより家庭に伝わるような取り組みを行っている。

《現状把握》

●各習熟度層の割合とその課題・取り組みについて
AB層の割合に関しては、適切な割合であると考え。B層上位の児童がもうひと伸び習熟を深めることができれば、より良い学習集団、環境が形成されるであろうと思われる。一方で、D層の児童の割合が高く、基本的な読む、書く、話す、聞く活動に難しさを感じている児童が多いと考えられ、是正を図る必要がある。
算数科同様、本校の重点課題はCD層の学力の底上げである。今年度の5年生の校内研究授業では、算数科同様、国語科での習熟度別学習を提案した。C・D層が少人数できめ細かい学習指導を受けることにより、質の高い作文活動や、文章・資料読解の機会が得られると考える。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

●書字環境の適切化・共通化

二小スタンダード、二小っ子学習スタイルの設定により、低学年から高学年まで学習環境を統一して指導している。毎年度教員同士でスタンダード等の検討を行い、児童の学習を支えるとともに、教員の指導の適切化を図っている。特に国語科に関しては、書字環境を整え、「背筋ピン足はベタお腹と背中にグーっ」等合言葉で低学年で習慣化している。高学年の取り組みは「AB層の育成」にて後述する。

・基礎学力の保障

●漢字を書く力を高めるために

毎学期2回、漢字書き取り能力向上のための取り組みである「漢字王」を行っている。各学級漢字50問テストを行う1週間前に児童に告知し、練習期間をとる。そして実施後100点の児童を放送で発表し、漢字学習への意欲を高める取り組みである。

●YOMUよむワークシートの活用

毎週区から配信されている新聞記事の読解ワークシートを、朝学習や隙間時間にやっている。

・学習習慣の確立

●自主学習の習慣化、手軽に予習復習できる環境について

算数と同様に、毎学期「家庭学習強化週間」を2週間実施して、自宅での自主学習に取り組ませている。加えて、普段からタブレット学習を推奨し、学習アプリ「ミライシード・ドリルパーク」を活用して、児童自身で簡単に授業の予習復習ができるよう指導している。

・AB層の育成

●「読む」力の伸長について

全国や東京都との乖離がみられる「読む」力について、6年生は、チャートや表、図で整理する活動を取り入れている。文章を読み込む上で、上記のように情報を整理する活動や、文章内容を自分事のように考えをもつ活動を、国語以外の教科でも取り入れている。AB層には、文章から読み取れた内容を自分の言葉でまとめて、課題や言語作品に生かす姿勢を求める。